

# 第17回野口国際ビジネス交流会

2015年3月17日(火) 15:00~

## 「新たな時代における日中ビジネス」

内田総研一Group 内田俊彦氏



近年、日中ビジネスは大きな変動期を迎えています。その要因は急速な経済成長を遂げた中国のビジネス環境の変化や、日本企業の中国イメージの低下にあります。しかしながら国内市場が飽和状態にある日本では、今まで以上に市場を海外に求めなければならない時期に来ており、日本企業は生き残りをかけ中国ビジネスに傾注しています。とは言い、難しい中国ビジネスを如何に成功させるか、そこには中国ならではの商慣習の掌握とニーズへの的確な対応が求められています。本セミナーが皆様の真の日中ビジネスの一助になれば幸いです。

### 内田総研(北京)国際投資顧問有限公司 董事長 内田俊彦氏

山梨県生まれ、税理士・内田国際法務会計事務所・所長、内田総研・Group・董事長。

1995年7月、中国注册税務師協会(元、中国税務諮詢協会)の顧問に外国人として初めて就任する一方、東京税理士会・国際部委員・中国担当責任者として10年にわたり日中税務関係者の国際交流に務める。現在、中国最大級の専門家集団「土業」ネットワークを構築、日本企業の中国進出、在中国日系企業の税務・法務等を、中国の第一線で支援中。

## 「中国とのメディカルツーリズムに対する取り組み」

野口インターナショナル画像診断クリニック 佐藤俊彦氏

私は、2003年より、中国人向けのメディカルツーリズムの取り組みを開始しております。中国は、今後5年間で、対GDP比の医療費は約2倍に急増すると考えられています。その理由に、高度成長による環境汚染に伴ったがんの急増と高齢化があげられます。これまでずっと円高基調でしたので、中国への進出つまりアウトバウンドの展開を考えておりましたが、さまざまな規制で成就することはありませんでした。しかし、アベノミクスによる急激な円安により、黙っていても中国人からの問い合わせが増えていきます。PETを中心にした癌検診サービスは、日本独特のシステムです。これにメディカル倶楽部のサービスを付加して、中国人向けのセントラルメディカル倶楽部もサービスを開始しています。私たちの取り組みをご説明させていただきます



野口インターナショナル画像診断クリニック  
佐藤俊彦氏

1960年福島県生まれ、福島県立医科大学卒業と同時に、同大学放射線科に入局。日本医科大学第一病院放射線科助手、獨協医科大学放射線科助手、鷲谷病院副院長を経て、97年宇都宮セントラルクリニック(現・医療法人DIC宇都宮セントラルクリニック)を設立、2002年(株)ドクターネットを設立し、08年(医)DIC理事に就任、10年(株)AIIM JAPANを設立、11年メディカルリサーチ(株)を設立、(株)共生医学研究所取締役就任。14年4月東北福祉大学 特任教授に任命。米国財団法人野口医学研究所 理事。最新著書は、『ボケは止められる!』(パブラゴ)